

中央西農業振興センター 高吾農業改良普及所

外部評価対象所属の概要

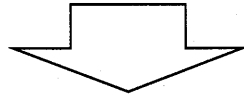
管内市町村 管内 J A	日高村、佐川町、越知町、仁淀川町 J A 高知県仁淀川地区（土佐市・いの町を除く）								
産地の特徴 主な園芸品目	<p>管内は、仁淀川の上流域から中流域にかけての中山間地域が多くを占める地域です。盆地特有の気象変化が見られ、一日の寒暖差が大きく、冬には積雪が見られることもあります。</p> <p>平垣部では水稲やニラ、冬春トマト、ショウガ、夏秋ピーマン、イチゴ、オクラ、新高梨等の園芸作物を中心に、中山間部では茶、梨、薬用作物、夏秋トマト等の地域の特性を生かした作物の生産を行っています。</p> <p>近年は、施設園芸品目では高品質・高収量の安定生産につなげるよう、環境制御技術の普及と、意欲ある担い手の育成や営農定着への支援にも取り組んでいます。</p>								
人員配置 平成 29 年度 13名 平成 30 年度 13名 令和元年度 13名	<p>令和 2 年度職員総数 13名（うち実務経験が3年未満の職員 3名）</p> <table border="1"> <tr> <td>農業改良普及所長</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>地域営農担当</td> <td>チーフ1名 普及指導員 3名 (担当エリア：全域)</td> </tr> <tr> <td>産地育成第一担当</td> <td>チーフ1名 普及指導員 3名 (担当エリア：日高村、佐川町)</td> </tr> <tr> <td>産地育成第二担当</td> <td>チーフ1名 普及指導員 3名 (担当エリア：越知町、仁淀川町)</td> </tr> </table> <p>(注) 1名：H30.11.20～R2.3.31 育休</p>	農業改良普及所長	1名	地域営農担当	チーフ1名 普及指導員 3名 (担当エリア：全域)	産地育成第一担当	チーフ1名 普及指導員 3名 (担当エリア：日高村、佐川町)	産地育成第二担当	チーフ1名 普及指導員 3名 (担当エリア：越知町、仁淀川町)
農業改良普及所長	1名								
地域営農担当	チーフ1名 普及指導員 3名 (担当エリア：全域)								
産地育成第一担当	チーフ1名 普及指導員 3名 (担当エリア：日高村、佐川町)								
産地育成第二担当	チーフ1名 普及指導員 3名 (担当エリア：越知町、仁淀川町)								
普及活動の 進ちよく管理	<p>○課題解決に向けた普及指導計画を作成（P）し、この計画に基づき対象者への働きかけ（D）、対象者の変化を把握（C）、到達目標に向けた普及活動の実践（A）を行いながら、次年度に向けた計画の見直しを行っています。</p> <p>【具体的な取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 普及活動ごとに指導記録を作成し、活動内容等を所属内で共有する。 重点課題は毎月のチーム会（チーム員＋チーフ＋所長）で、一般課題は四半期毎の所内検討（担当者＋チーフ＋所長）で、到達目標に対する進捗状況を確認すると共に、新たな動きや課題が出てきた時には、対応策を協議し必要に応じて計画を見直している。 10月には、中間評価として専門技術員も加わっていただき、各課題の進捗状況を確認し、後期の活動に向けたアドバイスを受けている。 第3四半期の実績報告では、到達目標に対する達成状況を明らかにし、次年度に向けて活動計画の見直しを行っている。 								

<p>職員の資質向上 の取組状況</p>	<p>●職場研修 研修テーマ：知的財産に関する資質向上 内容：1. 知的財産権の概要（特許制度、商標登録など） 2. 地理的表示（G I）保護制度の概要 3. 種苗法に基づく品種登録制度の概要</p> <p>●新任者を対象にしたO J T</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普及課題に基づいた普及業務の推進について ・関係機関（町村、J A）と連携した補助事業の推進について ・トレーナーや他職員からの各部門・業務・事業等の推進について <p>●国段階研修（令和元年度）</p> <table border="1" data-bbox="443 855 1426 954"> <thead> <tr> <th>研修名</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>普及指導員養成研修Ⅱ（経験者限定コース）</td> <td>1名</td> </tr> </tbody> </table> <p>（参考）平成30年度の参加人数 1名</p> <p>●県段階研修（令和元年度）</p> <table border="1" data-bbox="443 1162 1426 1308"> <thead> <tr> <th>研修名</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小型コンピュータ「Raspberry Pi」によるI o T機器の作成と活用方法の検討</td> <td>2名</td> </tr> </tbody> </table> <p>（参考）平成30年度の参加人数 3名</p> <p>上記の他に、普及指導員専門技術高度化研修、普及指導員トレーナー研修、普及指導員新任者研修などにも参加。</p>	研修名	人数	普及指導員養成研修Ⅱ（経験者限定コース）	1名	研修名	人数	小型コンピュータ「Raspberry Pi」によるI o T機器の作成と活用方法の検討	2名
研修名	人数								
普及指導員養成研修Ⅱ（経験者限定コース）	1名								
研修名	人数								
小型コンピュータ「Raspberry Pi」によるI o T機器の作成と活用方法の検討	2名								
<p>タブレット等 I C T技術の活用 状況について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境制御技術の推進に向け、環境測定データを共有するためにタブレットを活用。 ・住宅地図では確認できない生産ほ場の位置を特定し、職員間で共有するために、タブレットの地図情報サービスを活用。 								

外部評価対象課題の普及実績（元年度）及び計画（2年度）の概要

所属名	中央西農業振興センター高吾農業改良普及所																		
課題名	(平成28年度～令和元年度) 日高トマト生産団地の取組を核とした地域の活性化 (令和2年度～令和5年度) トマト産地のブランド力強化																		
取組期間	平成28～令和5年度	産業振興計画課題分類	I-①、②、③、II-②、 III-③、IV-①、②、③、 V-①、②、③																
対象	JA高知県日高支所ハウス園芸部会(2法人を含むトマト生産者)																		
ねらい	<p>○仁淀川流域のトマトは基幹作物として位置づけられており、トマト産地の発展のため、JA出資型法人(株)コスモスアグリサポートを中心に、研修生の受入れ体制整備に向けた取り組みを進める。</p> <p>○担い手の営農定着を促進するため、新規就農者や経営改善志向農家に対し、カウンセリングを行い、反収、売り上げ、所得目標などを明確にし、安定生産ができる農業者を育成する。</p> <p>○ハウス園芸部を中心に環境制御技術を取り入れた農業生産の推進、GAPへの支援などの取り組みを行い、産地力強化を目指す。</p>																		
令和元年度の主な実績	<p>○研修カリキュラム及び栽培技術習得チェックリストが作成され、研修生が1名確保された。</p> <p>○就農5年までの就農者(個人、法人)及び経営改善志向農家計13戸に対し、経営改善に向けた取り組みを行ったが、単価の高い時期に高糖度の割合が低かった生産者では所得目標に届かないものも見られ、目標達成率は60%となった。</p> <p>○促成高糖度トマトのJA出荷量は、410tとなり、目標を上まわった。</p> <p style="text-align: center;">(4/1～3/31:JA 高知県仁淀川地区日高支所出荷場調査)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">項目</th> <th style="text-align: center;">現状 (H30)</th> <th style="text-align: center;">目標 (R元)</th> <th style="text-align: center;">実績 (R元)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規就農者の確保(研修生)</td> <td style="text-align: center;">1名</td> <td style="text-align: center;">2名</td> <td style="text-align: center;">1名(50%)</td> </tr> <tr> <td>営農目標達成率</td> <td style="text-align: center;">72.7%</td> <td style="text-align: center;">100%</td> <td style="text-align: center;">60%</td> </tr> <tr> <td>促成高糖度トマトのJA出荷量</td> <td style="text-align: center;">349.6t</td> <td style="text-align: center;">395t</td> <td style="text-align: center;">410t(104%)</td> </tr> </tbody> </table>			項目	現状 (H30)	目標 (R元)	実績 (R元)	新規就農者の確保(研修生)	1名	2名	1名(50%)	営農目標達成率	72.7%	100%	60%	促成高糖度トマトのJA出荷量	349.6t	395t	410t(104%)
項目	現状 (H30)	目標 (R元)	実績 (R元)																
新規就農者の確保(研修生)	1名	2名	1名(50%)																
営農目標達成率	72.7%	100%	60%																
促成高糖度トマトのJA出荷量	349.6t	395t	410t(104%)																
令和元年度の主要な活動内容と実施時期 (前頁から続き)	<p>○新規就農者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)コスモスアグリサポートの研修生受入体制整備支援 ・就農相談対応、研修内容の検討と助言、就農計画の作成支援(個別面談・巡回指導:随時) ・研修カリキュラム及び栽培技術習得チェックリスト作成支援(個別面談4月～3月) ・生産者確保及び生産面積拡大についての意向調査(アンケート調査とりまとめ5月) <p>○担い手の営農定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営実績から、栽培・経営・労務管理の改善策・経営目標見直し(カウンセリング)6～7月 ・新規就農者5戸及び経営改善志向農家を重点対象として高品質生産技術の習得支援、簿記記帳指導(簿記講習会11回)。 ・栽培管理を中心とした改善策実践の支援(個別巡回10～3月)、実践結果の評価(個別聞き取り調査2～3月) ・支援マニュアル確認・見直し(担い手協議会) <p>○環境制御技術を導入した高収量生産技術の確立と普及</p>																		

	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌および汁液分析結果に基づく助言指導（全戸現地巡回 4～5月、9～3月） ・栽培管理の徹底（月例会、個別勉強会、個別巡回 4～3月） ・GAPへの支援（月例会6月、12月、出荷場GAP点検 8月）
--	--



令和2年度の主な目標	<ul style="list-style-type: none"> ○栽培指針を基にした栽培技術を習得し、高糖度率及び収量向上を図る。 ○各農家が、経営目標を立てて経営改善に取り組み、目標を達成して経営が安定する。 ○就農者の受入体制を整備して、研修生を確保する。 														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状 (R元)</th> <th>目標 (R2)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高糖度率 (8度以上) ※促成:10/1～2/28 夏秋:6/1～12/31</td> <td>促成 50%夏秋 20%</td> <td>促成 55%夏秋 35%</td> </tr> <tr> <td>促成トマト目標生産量 高糖度トマト 大玉トマト ミニトマト ※4/1～2/28</td> <td>5.2t/10a 13t/10a 8.4t/10a</td> <td>5.5t/10a 25t/10a 15t/10a</td> </tr> <tr> <td>経営目標達成率</td> <td>60%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>研修生及び就農希望者数</td> <td>1名/年</td> <td>1名/年</td> </tr> </tbody> </table> <p>・令和2年度から、JA高知県仁淀川夏秋トマト生産部会も対象とする。</p>	項目	現状 (R元)	目標 (R2)	高糖度率 (8度以上) ※促成:10/1～2/28 夏秋:6/1～12/31	促成 50%夏秋 20%	促成 55%夏秋 35%	促成トマト目標生産量 高糖度トマト 大玉トマト ミニトマト ※4/1～2/28	5.2t/10a 13t/10a 8.4t/10a	5.5t/10a 25t/10a 15t/10a	経営目標達成率	60%	100%	研修生及び就農希望者数	1名/年
項目	現状 (R元)	目標 (R2)													
高糖度率 (8度以上) ※促成:10/1～2/28 夏秋:6/1～12/31	促成 50%夏秋 20%	促成 55%夏秋 35%													
促成トマト目標生産量 高糖度トマト 大玉トマト ミニトマト ※4/1～2/28	5.2t/10a 13t/10a 8.4t/10a	5.5t/10a 25t/10a 15t/10a													
経営目標達成率	60%	100%													
研修生及び就農希望者数	1名/年	1名/年													
令和2年度の主要な活動内容と実施時期	<ul style="list-style-type: none"> ○農業経営力向上 <ul style="list-style-type: none"> ・栽培指針を基にした高糖度生産技術指導の周知徹底（促成・夏秋）（個別巡回、個別勉強会、栽培講習会、現地検討会 4～3月） ・地域労働力の確保・対策検討（アンケート調査 8月） ・経営目標達成状況把握と次年度の目標値を設定（個別カウンセリング 6～7月） ・目標達成度の確認と次年度経営目標値の確認（個別巡回・カウンセリング 2～3月） ○新規就農者確保 <ul style="list-style-type: none"> ・就農者受け入れ体制・情報発信方法の検討、産地提案書の見直し（関係機関連絡会・担い手協議会、6月から各月） ・栽培技術習得チェックリスト検証・修正（4～7月） ・就農相談対応（随時） 														

所内体制	野菜担当2名、経営・担い手担当1名、産地育成チーフ1名、地域営農チーフ1名
連携推進体制の整備	<p>JA高知県仁淀川地区、日高村、佐川町、仁淀川町、JA高知県日高支所ハウス園芸部会（2法人を含むトマト生産者）、JA高知県仁淀川夏秋トマト生産部会、高知県（高吾農業改良普及所、環境農業推進課、農業イノベーション推進課、農業担い手支援課）</p>

普及課・所名 高吾農業改良普及所

令和元年度 普及指導活動実績の概要一覧

課題名	チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	実績	達成 状況	普及活動のふりかえり	チェック欄
総1	6	経営目標達成農家数 秀品率(9~2月) 市場事故数	3戸/5戸 50.4% 3件	5戸/8戸 65% 0件	6戸/8戸 35.1% 0件	○ △ ○	延べ18回の個別カウンセリングを実施し、経営目標と課題を明らかにし、経営管理や栽培管理の助言や指導をしたことで6戸は目標達成できた。 月例会や個別巡回により、時期毎に品質低下の原因に合わせて予防や対策を指導してきたが、株養成不足等により目標達成には厳しい状況となった。 生産者版ガイドライン準拠GAPを活用し、腐敗対策会議等で生産工程の自己点検を実施し、あわせて出荷場でのGAP点検も実施したことで、事故件数が0件となった。	
総2	6	(農)沖名営農組合 事業戦略に基づいた計画の推進 斗佐耕業会 農地の共同利用	事業戦略作成 0	実施と見直し 1ha	実施と見直し 1.3ha	○ ○	定例会において事業戦略の実施確認や事業の柱である栽培品目の栽培技術指導、先進地研修会等を通して月別組織活動の実施と見直しをすることができた。 役員会において組織活動の目的や水稲栽培のスケジュールを確認し、水稲栽培技術指導や米食味検査により販売促進につなげることができ目標面積を達成できた。	
総3	5	研修生の確保 高糖度トマトのJA出荷量	1名 349.6t	2名 395t	1名 410t	△ ○	就農相談や研修生受け入れ体制の充実について検討したが、研修生は1名にとどまっている。現研修生に対する研修状況の確認や栽培技術習得チェックリストの充実を図った。 ハウス内の湿度を93%以下に抑えることを指導徹底し難防除病害の発生を抑えることができ、出荷量は目標を達成した。	
個1	2	GAPの実施 若手農家の育成 経営状況・改善内容の把握	なし 0戸	実施 5戸	実施 5戸	○ ○	部会においてGAPの必要性を説明し、理解が得られ、取り組み体制が整備できたことにより実施につながった。 経営面談をすることにより経営状況や改善内容が把握でき、自分の目標を引き出すことができた。	

個2	夏秋ピーマン新規栽培者の生産安定	1	新規栽培者の目標収量達成率	—	10戸/15戸	3戸/15戸	△	個別巡回で生育ステージに応じた基本的栽培管理技術指導を実施したが、高温多雨の影響により斑点細菌病が多発し収量減となった。
個3	経営に参画できる女性農業者の育成	1	ニラ女性農業者 チャレンジプラン作成 農家数	0人	8人	9人	○	ニラ生産女性農業者に対して経営のパートナーとして、学びたい学習内容を聞き取り講座等企画したことによりプラン作成農家が目標をこえた。
個4	仁淀川流域茶の生産体制強化と売れる商品化の推進	2	一番茶のみの栽培体系	10a	20a	60a	○	一番茶のみの栽培体系の実証展示ほを設置し、省力化等の効果が図れることを実証し、生産部会でPRしたことにより実施面積の拡大が図れた。
個5	特用作物の安定生産技術の検討	1	ミシマサイコ 実証ほ発芽率	20%以下	50%	31%	△	保水力の向上による発芽促進の効果を期待して種子コーティング処理を実証したが、目標水準の発芽率には達しなかった。
個6	夏秋高糖度トマト栽培の生産安定	2	天敵導入農家率	25%	100%	75%	△	天敵利用講習会により天敵利用方法の理解促進を図り、利用農家の声を伝えたことで、導入農家が増えた。
個7	労働力確保対策への取組推進	1	障がい者就労	0人	1人	1人	○	日高村農福連携会議で検討し、就労希望者への「トマト作業お試し体験会」の開催を行い、実体験を進めたことにより障がい者の就労につながった。

令和2年度 普及指導活動計画の概要一覧

課題名		チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	普及活動における主な手法	チェック欄
重1	強いニラ産地づくりと次世代ニラ農家の経営安定	6	ニラ収量品質向上 4～2月秀品率 12～2月出荷量 経営目標達成農家数	35% 137t 4戸/6戸	50% 150t 5戸/6戸	品種に応じた栽培管理指導：月例会月1回、現地検討会年2回、個別巡回毎週 個別経営目標確認：年1回、経営管理状況把握：個別巡回毎月1回 経営実績評価：個別巡回毎月	
重2	中山間地域の農業・農地を支える 仕組みづくり	5	農地の棲み分けマップづくり 集落営農組織数 ステップアップ組織数	なし 10組織 3組織	1ヶ所 11組織 4組織	プロジェクトチーム会の開催：課題解決検討会毎月1回、該当地域との話し合い 志向集落への啓発：関係機関と打合せ、勉強会1回、先進地事例調査1回、集落ビジョン作成座談会 活動状況の確認：各組織定例会4月～3月、経営品目の栽培指導4月～10月 活動目標の見直しや次年度計画検討：各組織定例会	
重3	トマト産地のブランド力強化	5	生産技術向上 高糖度率(8度以上) 経営管理能力の向上 経営目標達成率	促成50% 夏秋20% 60%	促成55% 夏秋35% 100%	高糖度生産技術指導の周知徹底(促成・夏秋)：栽培講習会、個別巡回、現地検討会(4月～3月) 促成栽培農家：個別カウンセリング6月～7月、個別巡回2～3月 夏秋栽培農家：経営実態把握6月～8月、個別カウンセリング3月	
—1	次世代につながるイチゴ産地の 担い手確保・育成	3	研修生の確保 若手生産者の早期技術習得 12～2月10aあたり収量	0 2.3t	1 2.4t	研修生確保対策：産地提案書に基づく情報発信、就農相談会等への参加(2回)、空きハウスの実態調査、栽培マニュアル、チェックリストの作成 栽培技術習得支援：勉強会7月～12月、視察研修7月～9月、肥培管理・定植後管理指導：月例会6回 個別巡回	

1-2	特用作物の作付拡大と生産性の向上による産地の振興	1	ミシマサイコの生産安定 10a当根部製品量 サシヨウ樹勢維持管理 食用サシヨウ製品量	14.5kg 16.8t	17.7kg 21t	栽培講習会2回、実証ほ設置5ヶ所 病虫害対策講習会1回、土壌調査：個別巡回(5月～10月)
1-3	仁淀川流域茶の生産力向上と販売への取組強化	1	自走式茶園管理機導入要望 新製茶ライン荒茶出荷量	0台 1,090kg	1台 2,000kg	自走式管理機導入啓発と意向把握：現地検討会2回 製茶品質向上の検討：検討会2回 集団販売活動の実施
1-4	シヨウガの生産安定	2	市場事故件数	2件	0件	土壌病害虫発生状況調査：アンケート、個別巡回(5月～10月) 土壌病害対策の周知徹底：勉強会(7月)、防除ごよみ作成、現地試験ほ視察研修1回
1-5	夏秋ピーマンの安定生産	1	基本栽培管理技術の徹底 平均反収 市場事故防止対策 発生件数	3.4t 22件	4.0t 0件	かん水・肥培管理の実証ほ設置1ヶ所 栽培講習会5回 個別巡回(4月～12月) 市場事故発生時の説明：聞き取り 腐敗対策の啓発：個別巡回月2回 腐敗事故防止マニュアル作成

令和2年度普及活動外部評価会
普及事業の評価結果及び改善方向に関する助言・提言

中央西農業振興センター高吾農業改良普及所

(○評価会で発表 ●評価表に記載)

評価項目	評価及び感想・ご意見	
普及指導活動の体制	・課内(所内)の分担	
	・活動の進ちよく管理の体制	
	・普及指導員の資質向上の取組	<ul style="list-style-type: none"> ●知的財産、GI、種苗法など、テーマをよく考えて研修が実施出来ている。職場研修での知識を農家へも普及して欲しい。さらなる意識向上や理解を深めていくこと。 ●3年未満の職員が3名いるが、工夫した活動が出来ている ●新任職員の教育は大変であるが、職員が連携して、現場にも積極的に出向いて経験値を上げて欲しい。
普及指導活動の計画	・普及課題の設定	●特徴のあるトマト産地を対象とするなど地域を活かした目標が設定出来ている
	・対象の設定	●普及計画について無理に数値で示す必要はないが、普及活動として職員の実務を行うなら、目標値が1戸や1人では低い気がする。根拠を示すこと。
	・関係機関との連携	●新規就農の確保は普及所だけでは困難なので、市町村との連携や学校教育で農業という職業の紹介など教育機関との連携も必要ではないか。
	・目標設定	
普及指導活動の成果	・活動の経過	<ul style="list-style-type: none"> ○新規就農者に自ら就農計画を立てらせる指導はとても良いこと。借り入れまでわかる表を作成しわかりやすい取組である。 ●定期的に会などを開催し努力している。
	・実績(活動の結果)	●コロナ禍で厳しい面もあるが、さらに後継者の育成、研修生の確保が必要だと思う。時間をかけて取り組んで欲しい。
	・成果(目標達成状況)	●高糖度トマトの生産はとても難しくリスクも高いことがわかった8度以上では果実が小さくなり、kg単価が上がっても1個あたりの単価や管理、手間などを考えると、経営的にはどちらが良いのか?
	・結果の周知	

外部評価、総合所見等

- 幅広い課題を担っていて大変だと思う。高糖度トマトは日高村のブランドとして知名度が向上しており、普及所の努力の結果だと思う。
- 新たな取組として、ニラのそぐり作業を農福連携で支援しているが、労働力としてだけでなく、社会参加を目的として行うことが大切ではないか。